

抄 録

A 本邦最近雑誌抄録

皮膚科泌尿器科雑誌

42巻2號(昭和12年8月)

「バラウタムシ」高杉、「ボナベタム

シ」高崎の原因菌知見補遺 藤井清二郎

「バラウタムシ」高杉、或は「ボナベタムシ」高崎の一原因菌として *Sabouraeides ruber* を推論し、培養に於ては紅褐色色調の出現の菌學的所見に於ては紡錘狀器官及び楕圓狀器官の存在を追加して居る。(八木抄)

圓形脱毛症に就て 小川 直秀

第1報、特に其の臨牀的觀察

本邦に於ける各種皮膚疾患中、本症の罹患率は5.78%を占め、各種脱毛症中に於ても本症の罹患率はその最高位を占めるものである。脱毛に對する影響は單に内分泌變調のみならず、精神的、肉體的衝動、外傷及びその他の諸種の刺激も亦大なる誘因である。初發部位は額部後頭部に於て最も多く、本症の合併皮膚疾患として尋常性白斑も多く、その他白毛、尋麻疹、鞏皮症が多い。本症は再發することが屢々ある。(八木抄)

黴毒患者の扁桃腺に關する研究

第1報 臨牀的觀察 土肥淳一郎

145例の黴毒患者の扁桃腺組織の一部を切除し、67例に *Spirochaeta pallida* を證明し、即ち第1期黴毒11例中4例、黴毒性「アンギーナ」35例中30例、黴毒性「アンギーナ」を有せざる28例中16例、潜伏黴毒65例中17例であるが、第3期黴毒6例、神經黴毒3例、晚發性先天黴毒7例に於ては全部陰性である。(八木抄)

所謂顆粒膀胱炎の臨牀的知見遺補

外塚岩太郎

著者は本症の3例を経験し、膀胱鏡所見は、

留針頭大乃至粟粒大、又はそれ以上の半球狀の顆粒で、黄色或は蒼灰色なれども、時に紅色を呈し、膀胱三角部頸部及び底部に好發し、治療としては「デアテルミー」焼灼推賞をする。

(八木抄)

42巻3號(昭和12年9月)

濕疹様變化と脂質代謝

濕疹様變化の諸種臟器脂質含有量に及ぼす影響に就て(其1)實驗的皮膚炎に於ける肝臟脂質含有量

尾崎 徹

肝臟總脂酸量は皮膚炎急性期に於て、逐日減少し、亞急性期に及んで著しく増加する。皮膚炎後の磷脂質量にありては、亞急性期に於て輕度の増量を示すの外著變を認めない。(八木抄)

(其2)實驗的皮膚炎に於ける脾臟

「コレステリン」含有量 尾崎 徹

脾臟總「コレステリン」含有量は人工皮膚炎により、其の急性期に於ては減量、亞急性期に及べば却つて増量を示し、治療と共に再び正常値に復す。(八木抄)

(其3)實驗的皮膚炎に於ける副腎

「コレステリン」含有量 尾崎 徹

副腎「コレステリン」含有量は炎症急性期の當初に於て既に減少し、殊に炎症最高潮期にありて其の度最も顯著である。亞急性期に入ると共に増加し、炎症の治療につれて漸次正常値に復歸する。(八木抄)

(其4)實驗的皮膚炎に於ける肺臟、

甲狀腺並に嚔丸「コレステリン」含有量 尾崎 徹

肺臟「コレステリン」含有量は炎症急性期の初頭に於て既に著しく増量し、急性末期より亞急性初期に亘りて一時正常値に近接するも亞急性